

切手の日誌

Stamp Diary

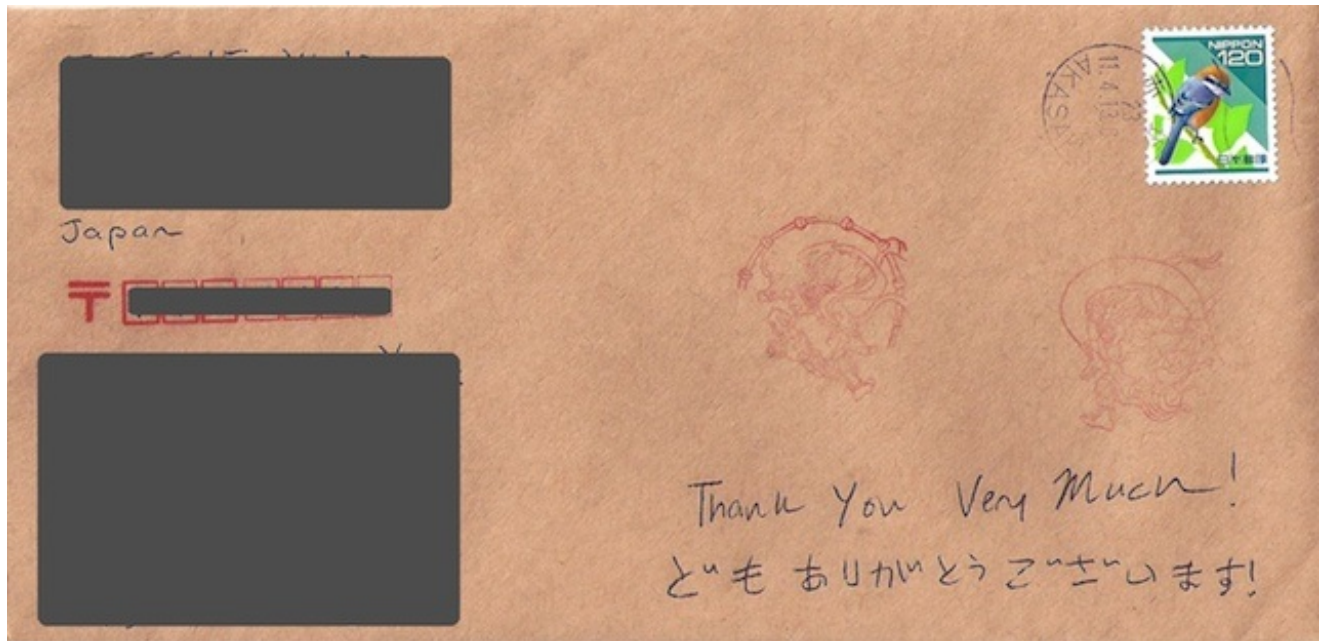


2011年5月号

5月1日

先月紹介しそびれたが、日本在住の方から交換の申出もあった。我先にと日本（東京）脱出に急ぐ外国人が多い中、切手交換を申出てくる悠長な方もいるものと思った。名前を見るだけではどの国か不明だが、交換条件の「様々な国の使用済み25枚」の多くはフィリピン・シンガポール・マレーシアなので、アジア系出身と推測した。

正直内容は貧弱だったが、びっくりしたのは封筒の封がされずに来た。



糊がなくても、ペロペロなめれば封ができる封筒だから、忘れたのかな?と思った。ところが、到着確認のメールを送ったところ「封をせずに送ったから、全部届いていると嬉しい」と返事があった。そうか、確信犯で封をせずに送ったようだが、その意図は不明である。

いきなりで恐縮だが、これまでの交換パートナーを紹介しておく。

ルーマニア（コジョルカ）… 2回ほど交換、震災で私の送付が滞っている

フランス（ジョゼ）… 未だ強い信頼（?）の元、続いている

オランダ（ベルタス）… 100枚1回で終了、完璧な内容だったが面白み薄

カナダ（SFタン）… 150枚1回で終了、ベルタスよりはフレンドリー

フランス（イザベラ）… 2回交換して終了、親日的

スリランカ（ラシカ）… 50枚1回で終了、怪しかったがきちんと届く

スリランカ（トレシャン）… Facebookに登録しろとしつこかった、目的が不明

ニュージーランド（サラ）… 残念ながら彼女の第1便が未着、しばらく続きそう

フィリピン（トリスタン）… 日本発1回25枚で終了、封をせずに到着

インド（サティシュ）… アジアは期待できかもと悟った内容、悪気はなさそう

アメリカ（ジョー）… 2回目進行中、しばらく続きそう

デンマーク（クラウス）… 1回目進行中、しばらく続きそう

アメリカ（ジョン）… 今月の新規

5月2日（ニュージーランド）

先方の第1便が到着しなかったニュージーランドの交換パートナーである。先方からのメールを見る限りでは、間違いなく送付しているようだから、悲しいかな事故でもあったに違いない。コジョルカの2便目など、ブラジル経由で到着した（と詫びの付箋が貼られていた）こともあったので、引き続き待つ。

しかし、その一方「あなたを信頼する」と言いながら、初日カバーで第2便を送ってくれた。手にしたときは、ダイレクトメールの類いかと思った。



マリオ族にちなんだ切手か。とてもニュージーランドらしい内容である。

5月3日（日本1981）

私の実年齢が推測されるが、この時代になると小遣いに余裕が出てきて結構まめに記念切手を買って集めては大事にアルバムに入れて保管してきた。そのせいか、1枚ずつ未使用がある。

今日のこれ、図柄に見覚えはあったが、改めてタイトルをみると「農林水産振興100年記念」とある。現在はこのようなテーマで記念切手は発行されない、何故だろう。



それにしてもこのデザインは、テーマにこじつけた図案とも思えなくもない。

5月4日（日本1981）

G.W.なのに、切手ばかりやっている訳でもない。しかし、つつい眺めてしまうのも事実である。我ながら、物好きな自分だ。



今日のこれは「港湾協会総会」とある。「コンテナ船・クレーンとマーク」と説明があるように、先日の「農林水産100年」と同様、とりあえず関係しているもの集めて並べた状態。良く言えば几帳面、悪く言えば真面目なだけで取り柄のない日本人になるのか。しかし、奇をてらうよりもいいかも。

5月5日（日本1981）

最後はこれ、「薬理学会」というテーマで「人体とせきずいと用量反応曲線」と説明がある。数学専攻の私は、グラフや数式を見ると普通の人よりは理由もなく反応してしまう。



なぜだか知らないが、この切手以降は割と絵柄の内容が具体性を帯びてくる。バブルへ向け、手間暇お金を費やし、明解なものを好むようになってゆくのか？

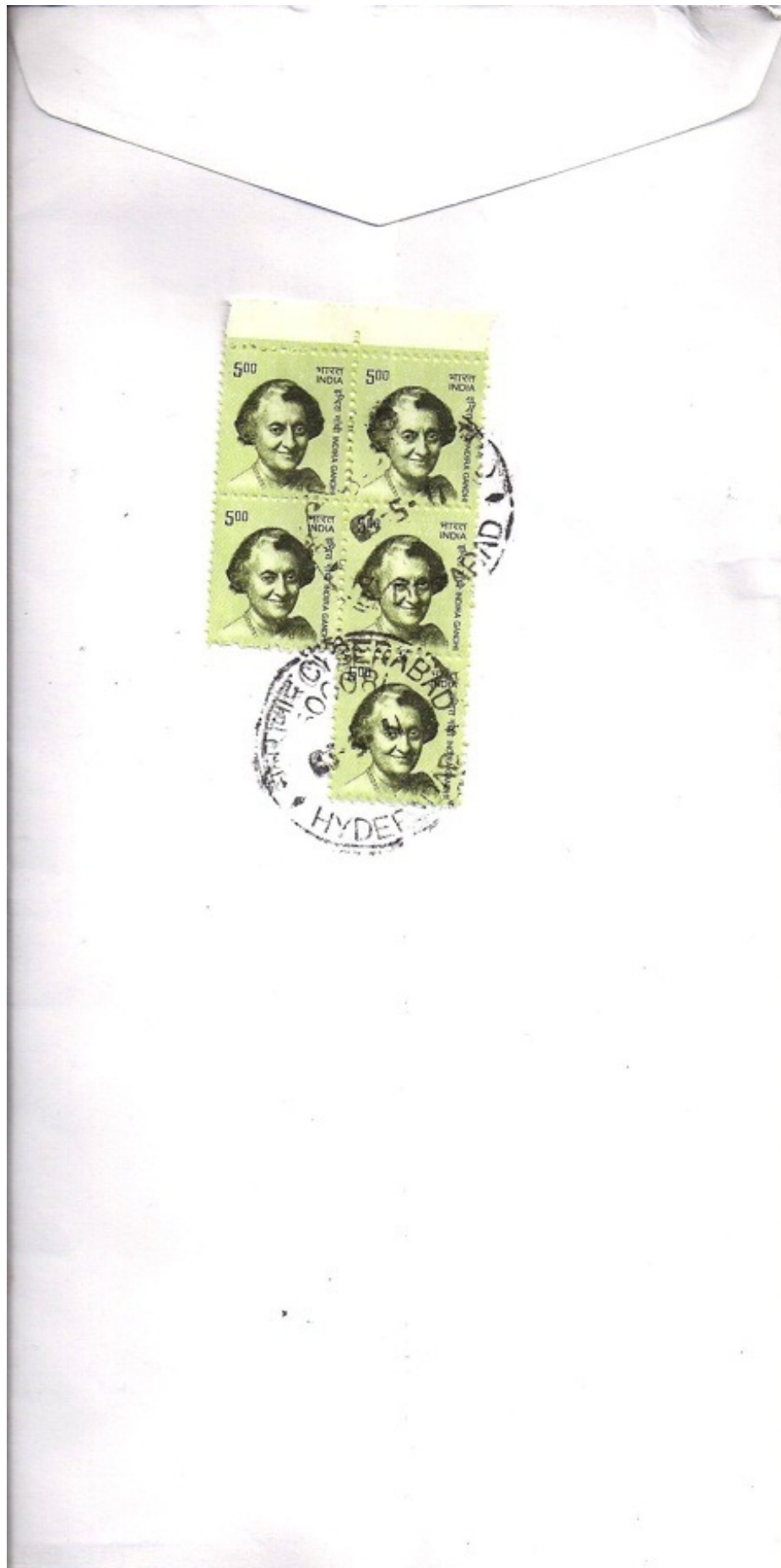
こうしてみると、何だかんだで80年代の日本切手も楽しい。当初はいかにも「デザインしてます！」という絵柄・図柄が鼻につき、自己主張が煩わしい…などと言ってしまったが、時代の閉塞感で息がつまりそうで、何につけても保守的で無難なことを選ぶ傾向がある昨今の日本から振り返ってみると、この時代は試行錯誤しているようにも思える。バブルが懐かしいのではなく、勢いのあった日本が懐かしい。

1989年からはふるさと切手の発行が始まり、発行種類が大幅に増えると同時に、2000年以降は記念切手のテーマもマンネリ化してくる。正直、今は日本切手のコレクションをどう形成しようか、真剣に悩んでいる。

この調子では、来月も解決できてないと思うが、機会を見つけ引き続き日本切手のお気に入りも紹介していきたい。

5月6日 (インド)

インドから100枚が届く。3週間ほどかかると言われていたのに、1週間で届いた。一方先方は2週間たった今でも、まだ私の分を受け取っていないようだが、届くだろうか。この方、オラクル勤務のようで、オラクル署名のメールだしこの封筒もオラクルの封筒であった。しかし、なぜか切手は封筒の裏側にある。





何事も日本人の感覚で判断してはいけないね。100枚に重複が見られるのと、やはり先進国に比べてどうしても内容は見劣りしてしまう。

5月7日（東ドイツ1968）

先月の24日に下記のような紹介をした切手がある。

1968年発行の3枚組は、ドイツのザクセンハウゼン強制収容所跡の記念館入口にあるようだ。ステンドグラスも3枚存在し、切手も3枚揃うと結構壮観であるが… 負の遺産である記念館にちなんであるのが少々皮肉かな。だけど、3枚揃えたいかも。

今日久しぶりに切手市場を覗いたら、見つけてしまった。しかも3枚で20円。



先月紹介したのは左端でしかも消印付（恐らく注文消と言われるCT0であろう）だが、今回は新品である。出会いは運命なので、見つけたらすぐ購入。後でとか、いつかなど言ったら、2度と会えなくなるからね。

今月の表紙は本日切手市場での収穫品、これで350円也。

5月16日（デンマーク）

デンマークから第1弾が届いた！



白地に白い封筒なので、わかり難いですが、切手が見えればよいでしょう。非常にシンプルな封書だが、やはり北欧切手は知的な感じがある。

かつて知人がコペンハーゲン（デンマークの首都）に住んでいたため、2回計3週間近く滞在したことがある。そのとき、お国柄を感じてはいたが、物静かに文化を慈しむ土壌があるのが良い。先方もこちらを気に入ってくれたようなので、しばらく続きそうな予感がある。がっつり北欧収集したいし、紹介してゆきたい。

5月17日 (アメリカ)

アメリカから第2弾が到着した。この彼、結構私の取引を気に入ってくれたようで、先方で記録を残している (と言っていた) ためダブルことなく、毎回異なる切手が届く。少し微笑ましいのは、Want List (探し物リスト) も交換しようとしきりに言うので、「そんなものないけど、あなたは送ってよいよ。私が探して、あなたのコレクション形成をお手伝いする」と言ったら9ページに渡る立派なリストを送って寄越した。



アメリカの切手は、良いような悪いような… だけど、やはりヨーロッパの方が魅力的かな。

5月21日（アメリカ）

まずい。早くもアメリカから第3弾が到着してしまった。しかし、今日の午前中に彼が送ってきたWant List（探し物リスト）を精査したから、遅々とながら選別作業は進んでいる。それにしても、アメリカから到着する彼の封書は毎回かつて私が抱いていた国際郵便のイメージそのままである。



今月は交換取引が多くて商売好調である（って、商売目的ではない）。

5月23日（東ドイツ1968）

1968年発行の絵画6枚組の1枚である。東ドイツらしくない絵画に捕まった。共産圏時代バリバリの1960年代に何故このようなアメリカン（私の主観）な図柄が発行されたのだろうか？

右端に「WOMACKA」とあるのでネット検索してみたら、どうやら画家の名前らしい。ドレスデン美術館の近代絵画館所蔵ということらしい。



少し長くなるが、これをきっかけに発見したことを紹介させてもらいたい。この画家は1925年にチェコで生まれ2010年にドイツの首都ベルリンで没した画家で、長らくベルリンで活躍していたらしい。socialist realist artist とあるから、素人的な物言いをすれば、主に人々の日常の営みを描いた社会派な画家ということに違いない。

この絵も画家は何を伝えたかったのかは不明だが、画かれている「海辺にいる男と女（しかもジーンズはいている）」は誰でもわかるだろう。しかも、女は男から目を逸らしているが、右手の位置は少し怪しげである。

Wikipediaによると、戦後の復興過程のベルリンで、この画家は多くのパブリックアートをデザインし、それらは社会に貢献する普通の人々という社会主義を象徴するアイデアを示していたと書かれているが、パブリックアートに盛り込むという手段が正に社会主義らしい。

現在でもベルリンに行けば街の公共スペースで彼の作品を目にすることができるのだろうか？ 2001年と2004年にベルリンに行ったが、記憶にない。ネットで引き続き調べると、作品は長らく無視されていた後、2003年頃から復活されている様子だ。

私が初めてベルリンを訪れた2001年ですら、東側地区にはまだ社会主義の面影を残している印象が拭えなかった。過去を知る人々にとって、彼の作品は苦しい時代を思い起こさせ、見なくて済むのであれば見たくなかったようだと推測する。

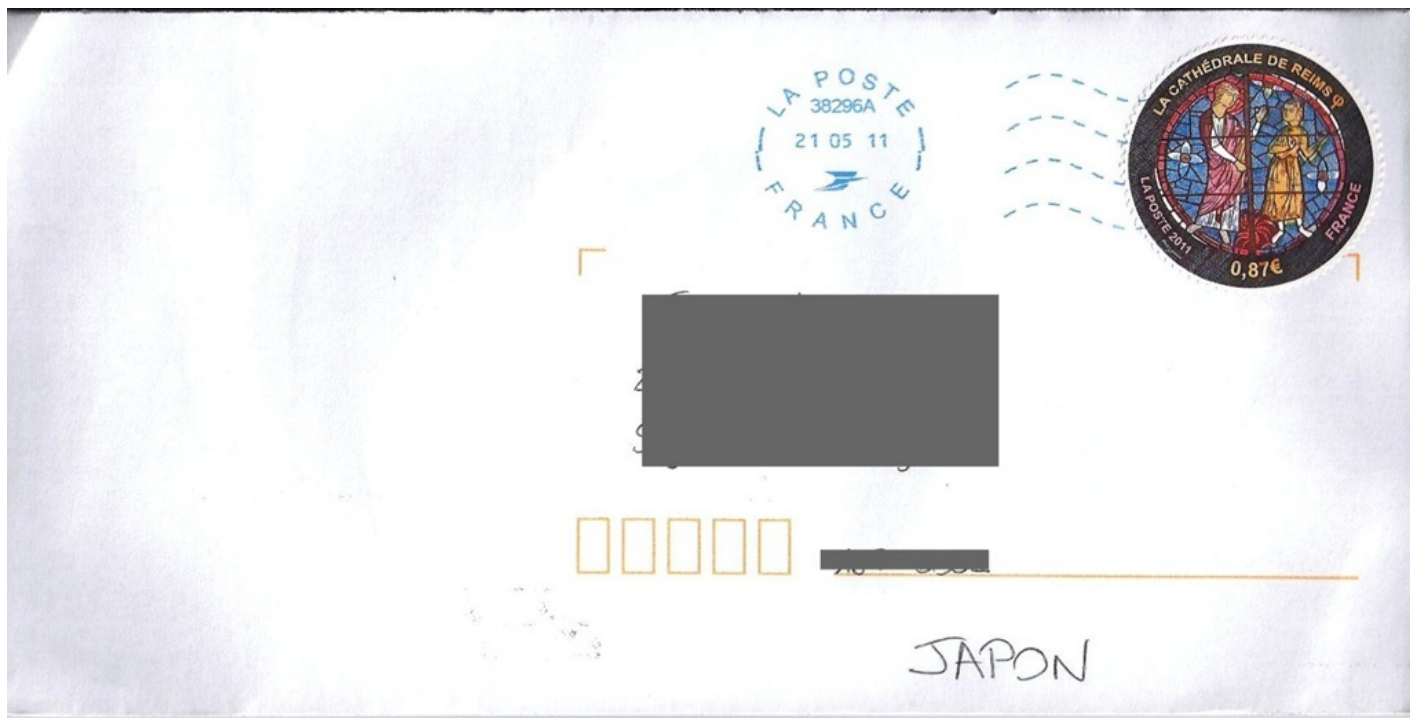
それでも時間が少しずつ人々の意識を変えて来ているようである。彼の作品は皮肉にも社会主義のツールとして利用されたが、そのツールとしての役目を終えた今、作品本来の価値が見直され始めているような気がする。できれば自分の目でベルリンを訪れ確かめたいところであるが、あいにくそれを行うほどの余裕がない…。なので、会社の自席でお弁当食べながら、英語と暗号（ドイツ語）を解読し、彼の作品のその後を調べてみよう。

一応検索の起点となったWikipediaサイトのURLを掲載しておく。

http://en.wikipedia.org/wiki/Walter_Womacka

5月26日（フランス）

先週、いきなりフランスから申出を受け、ジョゼがいるのでフランスに不足はないが100枚交換に応じると、早速先方からも到着した。



表のシンプルさは、まあこんなものだろうと割り切っていたが、中身を見てビックリ。ブラジルとかスペインとかドイツとかアメリカとかイギリスとか様々な国、古くて汚い普通切手ばかり、気絶しそう（は大袈裟だが）なくらい悲しくなった。騙された気分で「返品する」と文句のメールをしようか検討中。

と、受け取った瞬間の衝撃は大きく、上記のような内容になったが、時間も経つにつれて諦めの心境になった。これから初回はかつてのオランダのベルタスのように私も慎重に、まずは先方から受取り内容を吟味した上で対応しよう、と学習した。

人の良い日本人は止める。実は一昨日、パラグアイ在住のドイツ人おじさまから、これまた濃厚な申出を受けている。

今月はやり取りが活発になったし、書きたいアイデアもいろいろ出て来て、少し支離滅裂な内容になってしまった。日々の動き次第なので仕方がない。無計画で、その場限りの行動をとるという性格が露呈している。まあ、趣味だから（仕事もこんな調子かもしれない）許してもらおう。